



No.6

千葉県夷隅郡大多喜町

I. 基本情報

- 運営主体： 大多喜中学校後援会
- 事業目標： 休日の地域部活動を下記により実践し、持続可能な部活動の運営と教員の負担軽減を図る。
- 移行する部活動数・・・1部活（吹奏楽）
 - 地域部活動の実施期間・・・6月～2月
 - 活動の頻度・・・実施期間内の週1回（土曜または日曜）3時間以内
 - 確保する指導者数・・・外部指導員（常勤及び臨時講師）、兼業教員

主な活動種別

吹奏楽

運営形態（力）

地域移行

<その他の類型>

活動場所

大多喜町立大多喜中学校
千葉県立大多喜高等学校
大多喜町公民館

鍵、校舎管理の工夫・現状
(活動場所が学校の場合)

鍵は主顧問、副顧問、教頭で分担し、施錠等を行った。顧問等が不在の時は、他に活動している部活動の顧問と調整し、施錠等を行った。

参加生徒の基本情報

人数： 中学校 18人
活動日： 毎週土または日 3時間

指導者の基本情報

元県立高等学校吹奏楽部顧問
1名 1,600円/時間
兼業教員 3名 900円/時間

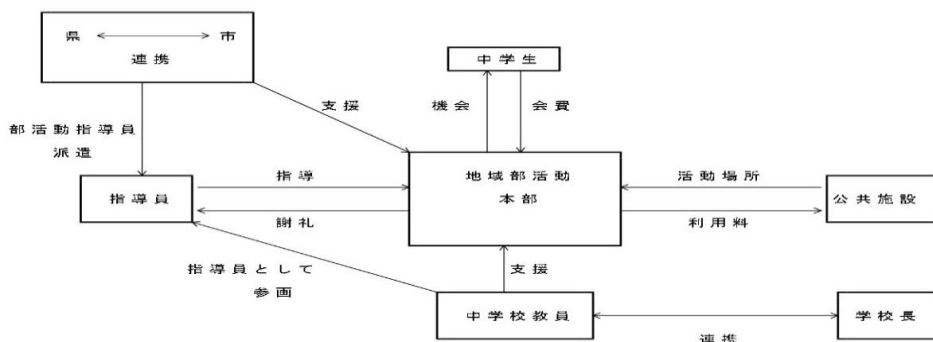
指導者の募集方法

前年度から継続依頼

活動財源

会費なし
文化庁事業委託費 61万円

団体・組織等の連携



II. 活動概要

大多喜中学校吹奏楽部は意欲の高い生徒が多く、積極的に活動を行っている。主顧問が家庭の事情で休日の部活動を行うことが難しい。そのため、専門的な知識や技術を持ち、長年、県立高等学校で吹奏楽部の指導をしてきた退職教員に、地域指導者として休日の活動を依頼している。

III. 成果・課題

本事業による成果

<生徒>

- ・外部講師による専門性の高い指導を受けることができ、意識の高い生徒にとって休日の部活動が充実した。
- ・財政面での補助により、昨年よりも家庭の個人負担が軽減した。

<教員>

- ・教員は技能面の指導に対する負担が軽減した。
- ・副顧問は学校の解・施錠の負担が減った。吹奏楽に関する知識がない副顧問は、音楽面の指導に対する精神的な負担から解放された。

<事業>

- ・学校外の施設を活動場所にする際の課題が明らかになった。
- ・謝金の所得税の処理等、地域部活動の実施主体が完全に独立した事業主となったときの問題点が明らかになった。

指導、運営上の工夫

○児童・生徒への指導に関する工夫

- ・休日の部活動を専門的な知識や技術を持っている外部講師から指導を受けることで、質の高い充実した活動につながり、生徒の意欲向上や技術向上を図ることができた。
- ・休日の地域部活動を平日の学校部活動の延長と位置づけて委託することにより、学校部活動での顧問や生徒の取り組みが、地域部活動に十分反映される。

○運営上の工夫

- ・当初は中学校内での活動を中心に行っていたが、校舎の解錠、施錠の管理を教職員が行うことになり、休日勤務の負担が解消されなかった。休日の教員の負担を減らすため、年度途中から町内の高等学校や町の公民館を利用して活動した。
- ・持ち運びの難しい、大きな打楽器等は高等学校を会場にすることによって解消された。また、高校生から教えてもらったり、一緒に活動したりすることで技能面が大幅に向上した。

見えてきた課題

今後に向けた方針・方向性

- ・地域の実情から、外部の任意団体に部活動全体を委ねる体制の構築は難しいため、校内の部活動を基盤とし、外部講師を招へいすることで、部活動顧問としての教員の負担を軽減していく。

- ・家庭の事情等、恵まれた希望者だけが恩恵を受けられるといった、学校部活動内の分断が起きないように、一人も取り残すことなく、すべての部員が意欲的に参加でき、有意義な活動とするための部活動の在り方について模索していく。